

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

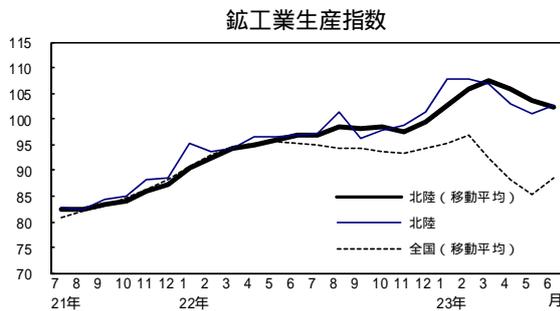
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 5 月)	今回 (平成 23 年 8 月)	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直している	持ち直しの動きに一服感	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、建設機械や金属工作機械などが海外向けを中心に堅調に推移した。電子部品・デバイスはスマートフォン向けが堅調なもの、家電向けが弱い動きとなるなど、減少している。化学は、医薬品などの増加から足元では持ち直しており、金属製品も自動車の生産回復を受けて持ち直している。繊維は、主力の衣料品向けで高機能衣料繊維が増加、非衣料品向けも自動車生産の回復などから持ち直している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は確報値。
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

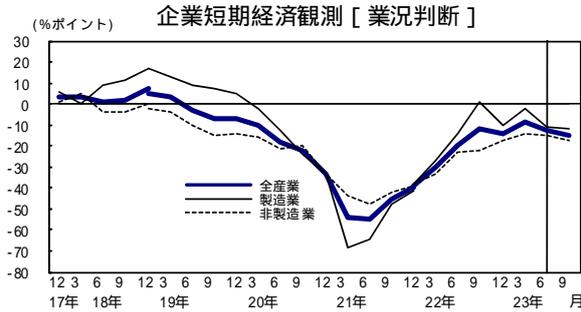
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	16.2	19.9	3.4	-	-
電子部品・デバイス	15.8	1.3	10.3	-	-
化学	14.5	16.4	4.8	-	-
金属製品	9.2	1.7	4.0	-	-
繊維	8.5	3.5	0.9	-	-
鉱工業	100.0	8.1	4.9	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

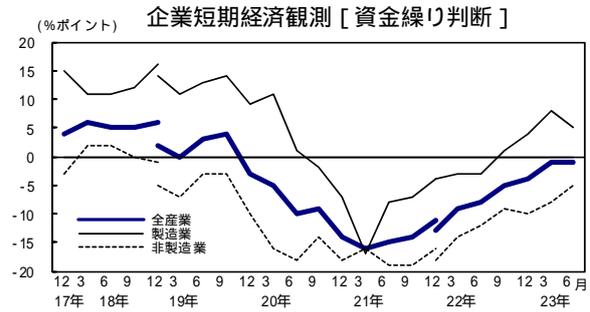
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

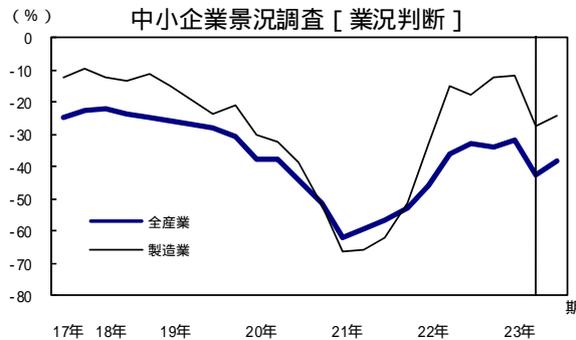
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

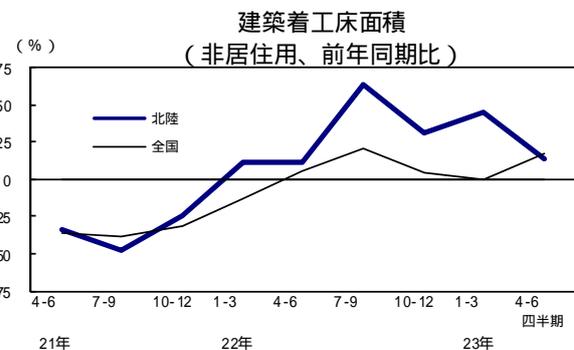
「東日本大震災後、落ち込んでいた国内の設備投資が動き出している。この影響で当社への受注も上向きである(一般機械器具製造業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	24.3(7.7)	10.3(5.5)
製造業	29.1(7.6)	17.9(3.5)
非製造業	12.2(7.9)	12.5(14.6)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

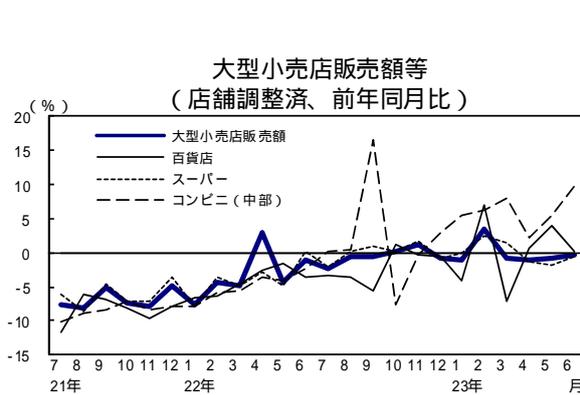
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で0.7%減、前期比で0.1%減となった。

百貨店は、4月は、自粛ムードの弱まりから衣料品や食料品が前年を上回るなど、全体でも前年を上回った。5月は、営業日数を増やしたことや、節電意識の高まりによりクールビス関連商品や省エネ家電が堅調に推移したことから、前年比増加幅が拡大した。6月は、引き続き、クールビス関連商品や省エネ家電といった家庭用品が堅調に推移し、前年を上回った。スーパーは、東日本大震災後に需要が拡大した飲食料品の反動減などから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「猛暑による実需品が売れている(衣料品専門店)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	1.2	0.2	0.5	0.7
百貨店(*1)	4.1	0.0	1.9	1.5
スーパー(*1)	0.3	0.2	1.1	1.3
大型小売店(*2)	2.2	0.5	0.2	1.3
(季節調整値)(*3)	(0.7)	(0.8)	(0.6)	(0.1)
乗用車(*4)	13.1	29.2	26.8	30.9
(季節調整値)(*4)	(5.6)	(32.4)	(1.8)	(6.0)

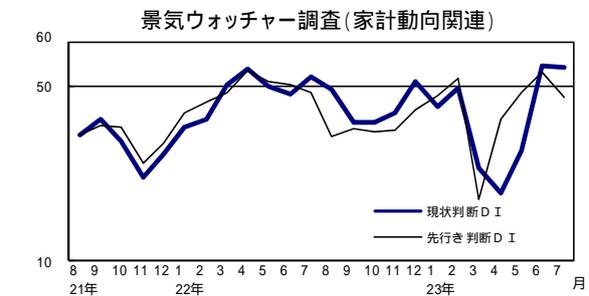
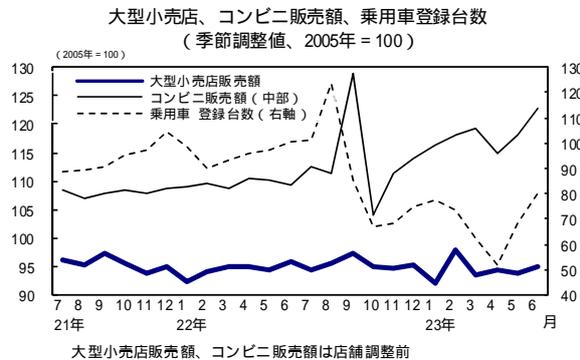
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

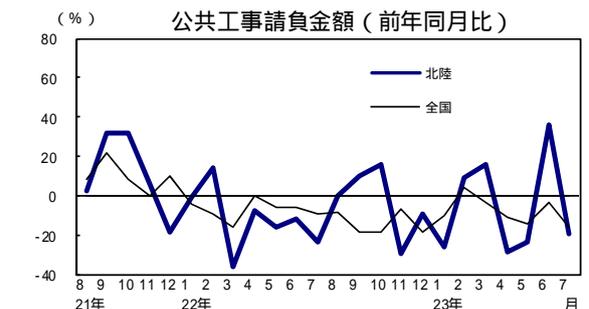
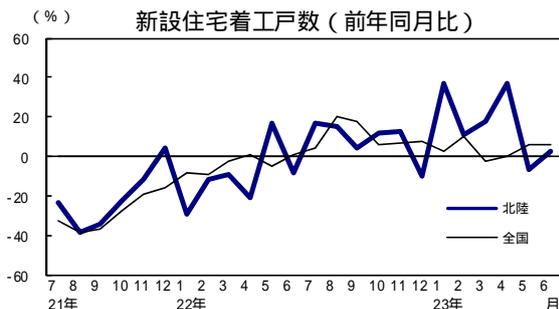
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲で前年を下回ったものの、給与住宅などが前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると下回っている。

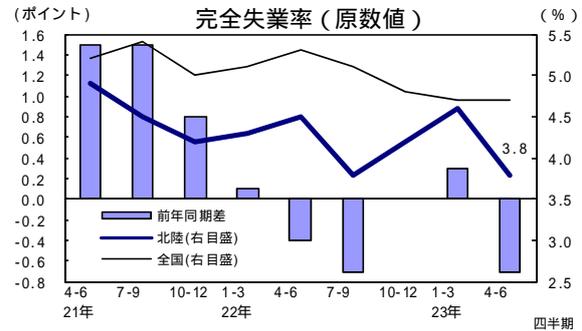
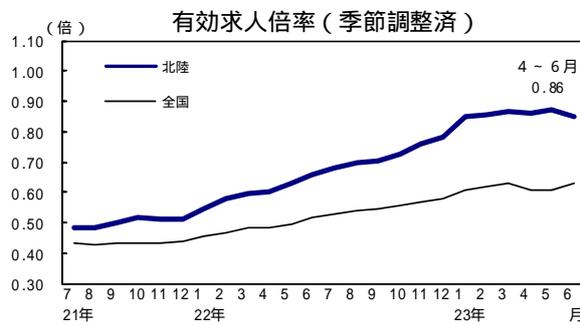


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

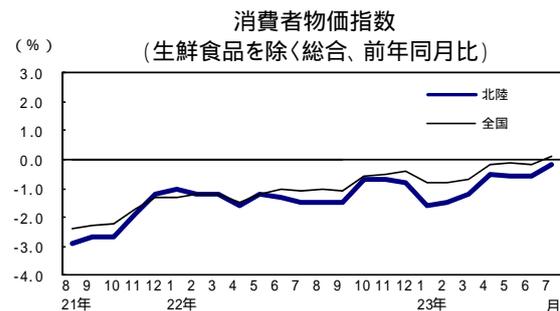
「新規求人数は14か月連続で増加しているが、増加幅が小さくなっている。新規求職者数は前月は増加したが、今月は減少した (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加し、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月	23年7月
倒産件数	100	77	78	107	22
(前年比)	6.5	34.2	3.7	44.6	4.8
負債総額	307	282	173	223	26
(前年比)	27.1	31.1	40.6	56.2	7.1



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・夏休み期間に入り家族客を中心に間際であるが予約が入っている (観光型旅館)

<先行き>

・3か月後には石油ストーブやファンヒーターが必要な時期に入り、エコ対策の一つとして、質の良い暖かいインナー、上質なアウターが打ち出されてくる (百貨店)

